

福岡赤十字病院外来診察担当医一覧表

○新患及び再来 ●予約のみ △午後新患(予約のみ) ▲午後再来(予約のみ) ※再来は原則予約制です

令和7年1月1日現在

科別	氏名	月	火	水	木	金	専門分野・備考	職名
総合診療科	川本 徹	○	○	○	○	○	内科一般	副部長
	総診当番医師①	○	○	○	○	○	※当番医：内科系医師による交番制	
消化器内科	青柳 邦彦			▲	○		消化管(食道・胃・小腸・大腸)	院長補佐
	平川 克哉							副院長
	冬野 雄太							副部長
	押領司祐貴子							
	吉原 崇正			▲	○			
	江頭 信二郎					▲		
	飯田 篤					▲		
肝臓内科	岩下 英之			○	○	○	肝疾患一般・肝炎	部長
	福田 祥	●				●	※胆・膵疾患一般(膵炎除く)は外科	
腎臓内科	徳本 正憲	▲		○				部長
	中井 健太郎	○	▲					副部長
	原 雅俊		▲		○			
	井上 めぐみ					○		
	上原 景太郎			▲				
	園田 慎一郎	▲						
糖尿病・代謝・内分泌内科	井元 博文	●	○		○		糖尿病、代謝、内分泌、生活習慣病	部長
	豊永 雅恵	○			○		※内分泌新患は火・水・金のみ	
	泊 秀史	▲		○				
	武井 祐樹		●		●			
	糖尿病担当医師		○		●			
循環器内科	向井 靖	○	○	○	○		循環器	部長
	松川 龍一	○			▲			副部長
	松浦 広英	○		▲				副部長
	小河 清寛				○	▲		
	徳留 正毅		▲		○			
	河合 俊輔	○		▲				
	岡原 有秀					○		
	滝見 拓矢					○		
	徳本 真弘	○					第1・3・5	
	青木 良平	▲					第1・3・5のみ	
高血圧内科	黒木 勇人						高血圧13時半から	副院長
	大坪 俊夫	△						
	中垣 憲明	●	○	○				部長
呼吸器内科	川床 健司				▲		呼吸器一般	
	鷺尾 康圭				○			
	平山 藍子	○			○			
血液・腫瘍内科	山家 晃							
	谷本 一樹	○		○			血液疾患一般	部長
	平安山 英穂				○		固形腫瘍の化学療法	部長
脳神経内科	河野 二郎	○						部長
	次郎丸 高志							部長
	北山 次郎	○			▲			部長
	緒方 利安		▲		○			部長
	岡田 卓也			●		○	神経一般	
膠原病内科	中島 弘洋	▲		○				部長
	金沢 信			○		▲		
	井上 靖	▲	○	○	○		膠原病	部長
	田中 淳	○		●	○	▲	※紹介予約は火・金の午後のみ	
感染症内科	中野 未来	○	▲	●	●			
	神川 壮太	●				△		
	三宅 典子		△			△	感染症一般(14時~15時受付)	部長
外科	藤吉 直子							
	大石 涼							
	中房 祐司	○					消化器外科、乳腺外科	院長
	永井 英司	○		○			消化器外科	副院長
	本山 健太郎	▲			○		腎移植外科	副院長
	小島 雅之	○		○			呼吸器外科	部長
	上田 純二	○			○		消化器外科、肝胆膵外科	部長
	井上 重隆	○		○			消化器外科	部長
	岡部 安博	○					腎移植外科	部長
	小倉 康裕	○			●	○	消化器外科、肝胆膵外科	部長
	小林 毅一郎	○					消化器外科	部長
	三好 圭	▲		▲			呼吸器外科	副部長
	龜田 干津			○	○		消化器外科	
	小田 康徳				○		消化器外科	
	松田 圭央	○			○		消化器外科、肝胆膵外科	
	服部 正見	○	▲	○	▲	○	乳腺・内分泌外科	
	森 瞳美	○	○	○	○		乳腺・内分泌外科	
中島 陽平	○	○				消化器外科		
佐藤 優	○	○		○		腎移植外科		
山本 眞大	○	○				消化器外科		
溝口 聖貴								
花木 伶								
船方 潤								
心臓血管外科	宮本 和幸	○			○		心臓外科、大動脈瘤	部長
	内山 光	▲			▲		血管外科 ※火・木のみ	
脳神経外科	継 仁	○			○		脳腫瘍	部長
	吉岡 努			手術日			脳血管障害(脳卒中)	部長
	神崎 由起	○					脳神経外科疾患	
	橋川 武史					▲	※水は手術日	

科別	氏名	月	火	水	木	金	専門分野・備考	職名
皮膚科	竹下 弘道	○	○	○	○	○	一般 尋常性乾癬	部長
	今村 桜子	○	○	○	○	○	アレルギー性皮膚炎 ※月は10時まで、再診は完全予約制	
眼科	山口 宗男	○	○	○	○	○	糖尿病性網膜症	副部長
	西田 宗男	○	○	○	○	○	白内障、緑内障 ※火は10時まで、木は手術日	
整形外科	非常勤医師				手術日			
	池村 聡	○		○			関節外科	部長
	加藤 剛	○		○			脊椎・脊髄外科	部長
	由布 竜矢	○		○			膝関節・脊椎外科・一般	部長
	安原 隆寛	○		○			手の外科・外傷・一般	
	齋藤 武彦	○		○			脊椎・脊髄外科	
	有隈 晋吉	○		○				
	高貴 市部	○		○			外傷・一般	
	高井 智子	○		○			※水は10時まで、火は手術日	
	安達 淳貴	○		○				
産婦人科	宮田 隆史	○		○				
	西田 眞			婦		産		副院長
	藤田 恭之			産		産		部長
	和田 智子	婦			産			
	濱崎 洋一郎				産	婦		
	貴島 雅子	産		婦			周産期	
	駒水 達哉	婦		産			悪性腫瘍、良性腫瘍	
	古賀 万里子	婦				産	腹腔鏡手術	
	井ノ口 文花						※火・木は10時まで	
	久富 恵理香							
小児科	田中 桜子	産				婦		
	松崎 聖司			産		婦		
	非常勤医師				婦			
	長友 太郎	○					新生児	部長
	古野 齋司	○		○			小児救急、アレルギー、感染、循環器	部長
(腎臓)(神経)(循環器再来)	黒木 理恵		○			○	腎疾患	副部長
	園田 有里		○			●	神経	
	渡部 貴秀		○			●	一般	
	江口 祥美					○	循環器	
	非常勤医師					●	腎臓 ※予約制、午前のみ	
耳鼻咽喉科	非常勤医師					●	神経 ※予約制、午前のみ	
	非常勤医師					●	循環器 ※予約制、午後のみ	
	高岩 一貴	○		○	○		耳科学 耳鼻科一般 水は第2・4のみ	部長
	高良 佳江	○		○	○		水は第1・3・5のみ	
	藤原 義宣	○		○	○		木は第2・4のみ ※火・木は第1・3・5のみ	
形成外科	犬塚 杏子	○		○	○		木は第1・3・5のみ ※火・木は第1・3・5のみ	
	近藤 玲未	○		○	○			
	前場 崇宏	○		○	○		再建外科、皮膚軟部腫瘍、先天性皮膚・骨関節外科	部長
	清島 圭二	○		●	●	○	尿路結石	部長
泌尿器科	秋武 正和	●		○		●	排尿機能障害	副部長
	児浦 未季史	○		○	○	○	尿路感染症	
	和田 大和	○			○	○	尿路性器腫瘍	
	竹内 陸						腹腔鏡手術	
	非常勤医師						ロボット手術	
精神科	芝田 寿美男	●	●	●	●	●	一般・行動療法・強迫性障害	部長
	非常勤医師					●	※完全予約制、火・水・金の午前8時診療 ※水・金・土曜日は各2名	
	丸瀬 靖之	○	○	○	○	○	一般歯科、口腔外科	副部長
歯科・歯科口腔外科	伊東 美穂	○	○	○	○	○	※再診は完全予約制	
	川戸 達也	○	○	○	○	○		
放射線科(診断)	松尾 芳雄						検査依頼(C・T・MRI・RI等)のみ	部長
	樋口 賢太郎						検査依頼	
	新堀 裕子						電話予約制	
	高瀬 華恵							
放射線科(治療)	竹中 耕平							
	非常勤医師	●		●		●	放射線治療	
麻酔科	迎 雅彦							部長
	岩下 耕平							
	駒井 考企						術中管理	
	丹羽 紗羽加							
	平野 敦梓							
病理診断科	立石 朝							
	古賀 淳也							
	野田 柊斗							
	江口 碧							
救急科	生野 慎二郎							
	西山 憲一						人体病理一般	部長
健診部	峰 真理						検体検査管理	副部長
	友尻 茂樹							部長
	荒武 憲司						救急(各種中毒疾患含む)	副部長
検査部	皆川 雄郷							副部長
	弓削 理絵							副部長
救急科	大坪 俊夫						人間ドック・健康診断	副院長
	友尻 茂樹							部長
救急科	荒武 憲司							副部長
	皆川 雄郷							副部長
健診部	弓削 理絵							副部長
	大坪 俊夫						人間ドック・健康診断	副院長

●受付時間 8時10分~11時00分 (診療開始 8時40分)
※診療科の備考欄に特に記載のない場合に限ります。

●急患診療体制
※救急車や医療機関からの紹介患者の受入れは、24時間体制で対応いたします。

内科系	平日	17時00分~23時00分
	土・日・祝日	8時30分~23時00分
小児科	土(祝日除く)	9時00分~17時00分

●休診日 土・日・祝・年末年始(12/29~1/3)
※出張等で休診する場合がありますので、事前に各診療科にお尋ねください。

☎0570-03-1211

担当医表は随時更新される場合がありますので、最新情報は右記のQRコードよりご確認ください。



福岡赤十字病院 広報誌

Cross Heart 2025.1 冬号

病院管理者【院長】中房祐司 【副院長】西田真 永井英司 本山健太郎 平川克哉 大坪 俊夫 【事務部長】平田秀茂
2025年1月発行(厚62号)福岡赤十字病院総務課 T815-8555 福岡県福岡市南区大楠3丁目1番1号 TEL0570-03-1211
<https://www.fukuoka-med.jrc.or.jp/>



福岡赤十字病院

日本赤十字社

謹賀新年



CONTENTS

新年のご挨拶

電子処方箋開始について

診療科特集 感染症内科

特定行為特集

Introduction 登録医のご紹介

愛風会 さく病院

桜十字福岡病院

病院の理念

信頼と調和に基づく最良の医療
~地域を尊重、世界を視野に

基本方針

1. 質の高い安全な医療
- 2.



新年のご挨拶

福岡赤十字病院 院長

中房 祐司



新年明けましておめでとうございます。

コロナパンデミックが収束して以降、マイコプラズマ肺炎、手足口病などこの数年間、ほとんど見られなかった感染症が大流行しています。このパンデミックがいかに強烈なものであったかを認識させられています。

昨年、当院の活動は元日の能登半島地震への対応から始まりました。徐々に判明する被害の大きさに大変な驚きを覚えました。赤十字病院として、私たちは今までの自然災害と同様に医療や生活の支援を中心に考えて救護班を派遣しました。しかし、能登半島から帰還した班員の報告を聞き、交通、搬送、物流の重要性を改めて認識しました。地震によって道路に段差ができると一般車両は簡単には前に進めなくなるようです。能登に入った赤十字車両は自衛隊車両に続く形で前進したと聞いています。日本赤十字社は日本国内の災害救護を担う最大のグループとして、保有車両やロジスティクス部隊の充実を図る必要があると感じました。

現在、医療界ではさまざまなデジタルトランスフォーメーションが進められています。当院では昨年1月に電子カルテを更新し、これに合わせて院内のデジタル化を進めてきました。入院患者さんの脈拍、血圧などのデータを電子カルテに自動取り込みし、病棟業務の効率化ができるようにしました。また、外来患者さんの利便性向上をめざして、スマートフォンアプリ「コンシェルジュ」を用いた診察・検査の待ち情報案内や料金後払いシステムを導入しました。

これにより待ち時間によるイライラを解消することができています。特に、支払い待ちによる総合受付の混雑がほとんど見られなくなったことは大変大きいと感じています。

公的病院はマイナ保険証、電子処方箋の利用率向上を厚生労働省から強く指導されています。このため、来院される患者さんに無理にならないように利用をお勧めしております。国の方針として、今後はマイナ保険証に統一されること、電子処方箋の利用により重複処方や禁忌処方を回避でき、安全性向上につながることをご理解いただきながら利用率向上を図っています。皆さまのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

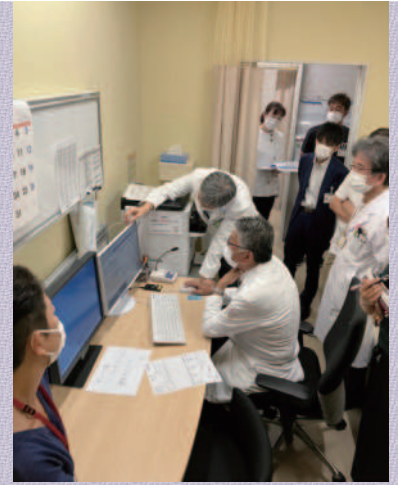
当院のような地域医療支援病院には地域の医療従事者への教育が求められています。その一環として、2年ほど前に地域連携WEBセミナーを開始しました。内容は当院医師の新しい取り組みや専門領域のトピックスなど30分の講義です。お申し込み頂いた医療従事者の方々に配信アドレスをご連絡致しております。さらに、昨年からはアーカイブス動画の閲覧も可能と致しました。

当院はこれからも診療内容やサービスをさらに充実させていきたいと考えています。近隣のクリニック・病院の先生方としっかりと協力・連携を行い、地域住民の方々に安心頂けるような病院運営を行う所存です。

本年も皆様のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

令和7年1月吉日

電子処方箋 開始について



福岡赤十字病院では2024年10月より電子処方箋の発行を開始しました。電子処方箋は、処方箋を電子化し、その内容や保険薬局での調剤結果を国が管理するクラウド上に登録することで、医療機関や保険薬局が共有・閲覧できる仕組みです。この仕組みにより、従来のオンライン資格確認では最短でも1か月程度かかっていた他院での処方履歴の確認が、電子処方箋では即時に可能となります。これにより、病院や薬局をまたぐ重複投薬の防止や薬剤相互作用のチェックが迅速に行えるようになり、安全で効率的な医療の提供につながります。また、保険薬局で調剤済みの処方に関する情報は即時に電子カルテに反映され、調剤を受け付けた薬局の情報や疑義照会、処方変更内容、薬局からの伝達事項なども共有されるため、病院薬局間の連携がスムーズになり、情報伝達の効率化が図られます。電子処方箋は医療DXを推進する新たな基盤として国が整備を進めていますが、厚生労働省の調査では2024年11月時点で電子処方箋に対応可能と回答した病院は全体の約2%、保険薬局では約50%と、現状ではまだ十分に普及しているとは言えません。日赤グループ全92施設の中でも電子処方箋を導入しているのはわずか2施設にとどまっております。普及には課題が残されています。当院では副院長、事務職、薬剤師、電子カルテベンダーで構成された電子処方箋ワーキンググループを設置し、準備を進めました。院内の医師連絡会や管理者会議などを通じて病院全体で方針を共有し、DXに通じる副院長のリーダーシップのもと具体的な運用方法を検討しました。薬剤師は福岡市薬剤師会や保険薬局との連携を進め、薬品コードや用法コードの整備などのマスタ設定を行いました。特に、薬品コードとして使用されるYJコードや厚生労働省が定める標準用法マスタとの対応テーブル作成については、電子カルテベンダーの支援を受けることで

効率化を図ることができました。導入準備ではリハーサルを実施し、院内スタッフに電子処方箋を発行して周辺薬局での動作確認を行い、運用開始後は保険薬局との連携により発生する課題に対応しています。電子処方箋導入後は、その情報共有の簡便さとスピード感に大きな可能性を感じていますが、保険薬局のレセコン設定や電子処方箋管理サービスの不備など、多様な問題が発生しています。これらの課題については関係部署や保険薬局との協力で解決を進めていますが、まだまだ手探りの部分も多い状況です。

「スマートで便利」なイメージのDXですが、実際には多くの試行錯誤の上に成り立っていることを電子処方箋の導入を通じて実感しました。導入時には様々な課題や問題に直面しましたが、それらを一つ一つ解決していく中で、医療現場の効率化や患者さんへの医療の質向上といったメリットを実感しています。当院での経験が多くの医療施設で共有されることで、電子処方箋をはじめとする医療DXがより広く普及し、さらに多くの患者さんと医療従事者がその恩恵を享受できる未来を願っています。



新年あけましておめでとうございます。

感染症内科は現在3人体制で診療を行っており、感染症医としての感染症診療と感染防止対策室の専任、もしくは兼任医師として感染対策推進に従事しています。感染症医としては外来・入院患者さんの診療、院内のコンサルテーション対応、全科の血液培養陽性患者さんへの診療支援を行っています。近隣の医療機関からも患者さんのご紹介をたくさんいただいておりますが、今回の診療科紹介では、「医療機関からご紹介いただいた患者さん」で、「原因不明の感染症が疑われ入院治療が必要」となり、「血液培養で診断がついた」、興味深い一例をご紹介します。持続する発熱、両側下腿の蜂窩織炎でご紹介となった高齢の患者さんです。当院紹介時にはすでに抗菌薬が使用されていましたが、診察した当院の内科医師が原因不明の蜂窩織炎として、血液培養を提出していました。培養3日目に血液培養装置が陽性となり、グラム染色でらせん菌が鏡検され(図)、感染症内科による診療介入となりました。血液培養陽性日までの日数、菌の形態からカンピロバクター属を疑い抗菌薬の変更を行い、治癒が得られました。この菌は

後日、*Campylobacter fetus*と同定されました。*C. fetus*はウシやヒツジなどに保菌しており、ヒトでは敗血症や髄膜炎、感染性動脈瘤の原因菌として知られている菌です。

本患者さんは*C. fetus*による両下腿の蜂窩織炎という稀な疾患でした。入院時に血液培養を採取されていなければ診断がつかず、なんとなく治療を行い、なんとなく良くなったか、治療に難渋していたかもしれません。当科にローテーションしていた研修医にとっては大変勉強になる一例だったと思います。

我々感染症医はこういった患者さんをきっかけとして、血液培養採取のさらなる推進活動を行い、血液培養陽性患者さんへの診療支援を行うことで他の診療科や医療機関と密な関係性を築き、より良い感染症治療を行っていきたいと考えています。

感染症診療等でお困りの際は、お気軽にご相談いただければと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



血液培養診療介入カンファレンスの様子(感染症医とローテーション中の研修医)

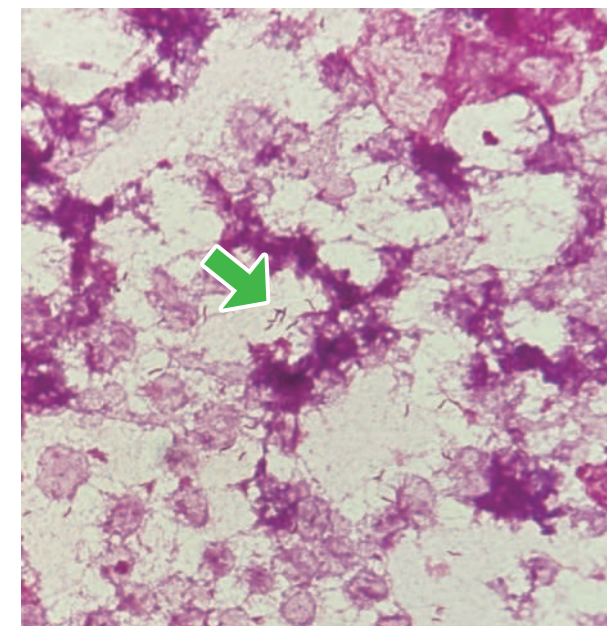


図 血液培養のグラム染色像 →らせん菌

特定行為について

特定行為とは、医師が行っていた一部の医行為を、手順書をもとに看護師が実践できる行為をさします。この特定行為を実践する看護師は、当院では「特定看護師」と呼び、厚生労働省から認定を受けた指定教育機関で専門的な学習と技術を習得したエキスパートナースです。当院は、現在、全国で373機関ある指定教育機関の一つであり、2018年より特定看護師の育成を開始、現在12名が活動しています。特定看護師に期待される役割は、患者へのタイムリーな医療提供の実現、チーム医療のさらなる発展です。医師不足が深刻化する中、医師の働き改革と質の高い医療の双方を実現するために大きな期待が寄せられています。当院で実践している特定行為に関しては当院HP「特定行為とは」をご参照ください。今回は当院での特定看護師の活動を一部ご紹介いたします。当院の特定看護師は職種間を繋ぐ架け橋であり、チーム医療の中心的役割を担っています。部署を超え、施設を超え、地域医療の質の向上にも貢献できるよう努めています。

集中治療センターでの活動

集中治療センターはICUに3名、HCUに1名の特定看護師が活躍しています。主に、人工呼吸器の管理や、鎮静剤、鎮痛剤などの薬剤の調整、患者さんの栄養状態に合わせた食事の調整を医師に代わり、行っています。患者さんのその日のご病状はカンファレンスで細かく情報を共有し、治療目標を医師とともに共有しているので、より正確な病状管理に繋がっています。



手術室での活動

手術室には1名の特定看護師が活躍しています。一部の全身麻酔を必要とする患者さんの麻酔維持管理を担当しています。医師不足の中で麻酔科医の不足は深刻です。特定看護師が導入時の動脈ラインの確保や麻酔維持管理を行うことで、麻酔科医は、より重篤な病態の患者さんの大手術に十分な時間を費やすことができ、タスクシフトが実現しています。



一般病棟での活動

一般病棟では、北館4階病棟に1名、北館6階病棟に2名の特定看護師が活躍しています。病棟に入院している患者さんの病状や食事に合わせて、輸液や栄養剤の投与内容を調整しています。病棟に勤務している特定看護師が実践しているからこそ、患者さんの希望や生活にタイムリーに寄り添うことができます。病棟担当の管理栄養士や薬剤師とも連携しながら、医師と調整しています。



地域とともに！ 登録医紹介

当院の基本理念である「信頼と調和に基づく最良の医療～地域を尊重、世界を視野に」を行うための心強いパートナーとなる登録医の先生方をご紹介します。

愛風会 さく病院

Q 開設から現在について

当院は1930年(昭和5年)に竹下で開院し、90年以上地域医療に貢献してきました。現在は急性期一般病床(44)、回復期リハビリ病床(88)、特殊疾患病床(40)の計172床で、回復期をメインとした後方支援病院として、また博多区Bブロックのブロック支援病院として、地域包括ケアシステムの構築を推進しています。

Q 診療体制や特徴

回復期をメインとしており、高齢の患者様が多いのですが、標榜科以外にも血液内科・感染症内科・脳血管内科の医師も在籍しており、様々な合併症をお持ちの患者様に対応可能です。また急性期一般病床での急性期や亜急性期の受け入れ、特殊疾患病床でのパーキンソン病などの長期入院も可能ですし、レスピレーター管理や終末期医療にも対応しています。

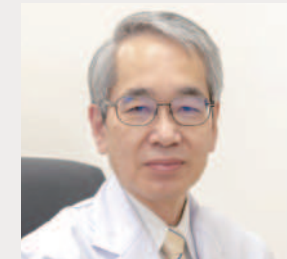
回復期としましては、リハビリスタッフ70名を擁し、STも8名在籍しており、在宅復帰率も90%以上と頑張っています。また365日のリハビリ提供体制を急性期一般病床や特殊疾患病床でも行っており、病院全体でリハビリの充実を図っています。

Q 地域の方々へのメッセージ

当院は今までも、そしてこれからも地域の皆様のための病院です。どうぞお気軽に受診してください。また医療・介護でお困りのことがありましたら、当院相談室のソーシャルワーカーにご相談ください。地域の開業医の先生方との連携強化にも注力しており、レスパイト入院なども引き受けています。皆様が安心して健康的な生活が送れるように努力してまいります。



院長 遠近 裕宣 先生
住所 812-0895 博多区竹下4丁目6-25
TEL 092-471-1139(代表)
診療内容 内科・外科・整形外科・泌尿器科・胃腸内科・循環器内科・神経内科・糖尿病内科・リハビリテーション科・皮膚科・リウマチ科・アレルギー科・放射線科
診療時間 9:00~12:30/14:00~17:00 土曜は午前のみ
休診日 日曜・祝祭日



桜十字福岡病院

Q 開設から現在について

2009年に、博多区住吉にあった友愛病院の事業を桜十字グループが継承し、2013年に渡辺通に位置する現在の桜十字メディカルスクエアへと移転し、桜十字福岡病院として新しく生まれ変わりました。

Q 診療体制や特徴

当院は医療・介護サービスを提供する回復期病院です。亜急性期から回復期、生活期まで対応が可能で、急性期病院から患者さまを移送いただいた後、在宅復帰に向けた看護とリハビリテーションに取り組んでいます。車で数分の距離にある福岡赤十字病院からの患者さまも多く、日頃から連携を図るよう努めています。

当院では「リハビリング」をコンセプトに、リハビリとリビング(居住)スペースの境界をなくし、生活のすべてをリハビリに使えるような工夫をしています。認定理学療法士など専門性の高いセラピストを含め約100名ほどのPT/OT/STが在籍しており、リハビリテーション科専門医のもと特定行為看護師等多職種で連携し、患者さまの在宅復帰をサポートします。

Q 地域の方々へのメッセージ

当院は回復期リハビリテーション病棟(100床)、地域包括ケア病棟(49床)、障害者施設等一般病棟(50床)の計199床に加え、外来診療、健診、デイケア施設、介護老人保健施設、有料老人ホームなどが同じ建物内にあり、その他にも訪問看護、訪問リハ、訪問介護、居宅支援事業所を備えています。

退院後も健康管理や生活支援まで一体的に行うことで、住み慣れた地域で自分らしい生活が続けられるよう、今後も近隣の医療・介護関係機関と連携し、地域医療を支えていく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。



院長 山本 雄祐 先生
住所 810-0004 福岡市中央区渡辺通三丁目5-11
TEL 092-791-1100
診療内容 内科、循環器内科、漢方内科、リハビリ外来、歩行装具外来等
診療時間 平日 8:30~12:30、13:00~17:30
土曜 8:30~12:30(第1・3 漢方外来のみ)
休診日 土曜日(第2・4)、日曜・祝日、年末年始

